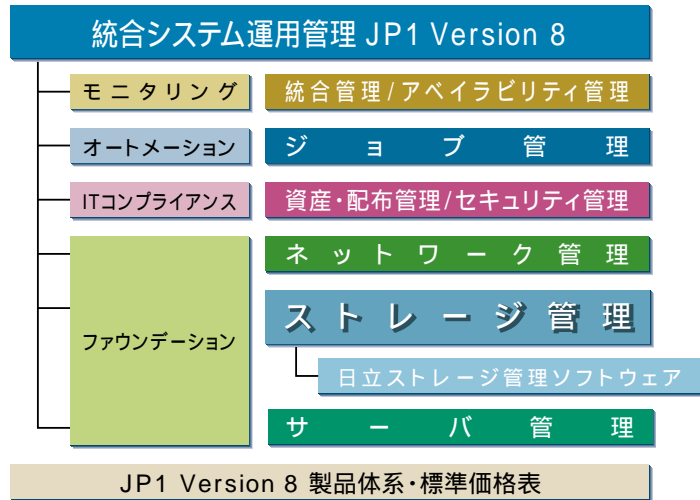


JP1 Version 8のカタログ一覧


詳細は各製品のカタログをご参照ください。



・本カタログでは、1KB(キロバイト)=1,024バイト 1MB(メガバイト)=1,024²バイト 1GB(ギガバイト)=1,024³バイト 1TB(テラバイト)=1,024⁴バイトで表記しています。

・AIXは、米国における米国International Business Machines Corporationの登録商標です。・HPは、米国Hewlett-Packard Companyの会社名です。・HP-UXは、米国Hewlett-Packard Companyのオペレーティングシステムの名称です。・Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。・Microsoftは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。・ORACLEは、米国Oracle Corporationの登録商標です。・Solarisは、米国Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または登録商標です。・Symantec Backup Execは、米国およびその他の

の国での米国Symantec Corporationの登録商標です。・VERITASおよびVERITASロゴは、米国Symantec Corporationの登録商標です。・VERITAS Backup Execは、米国およびその他の国での米国Symantec Corporationの商品名称です。・VERITAS NetBackupは、米国およびその他の国での米国Symantec Corporationの登録商標です。・Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。・その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。



JP1は、日立グループの「環境情報表示制度」に基づき環境配慮を評価し、スーパー環境適合製品として登録した製品です。本製品をご利用いただくことで、導入前に比べCO2を約50%削減できます(弊社モデルケースの場合)。詳しい環境情報は、当社のホームページで、ご覧いただけます。
<http://greenweb.hitachi.co.jp/>

画面表示をはじめ、製品仕様は、改良のため変更することがあります。
 本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。
 なお、ご不明な場合は、弊社営業担当にお問い合わせください。

製品に関する詳細・お問い合わせは下記へ

製品情報サイト
<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>
 インターネットでの問い合わせは
<http://www.hitachi.co.jp/soft/ask/>

電話でのお問い合わせはHMCC(日立オープンミドルウェア 問い合わせセンター)へ
 ☎ 0120-55-0504 利用時間 9:00~12:00, 13:00~17:00(土・日・祝日・弊社休日を除く)

株式会社 日立製作所 情報・通信グループ ソフトウェア事業部

CA-555S 2008.4
 Printed in Japan(H)

統合システム運用管理 JP1 Version 8

ストレージ管理

Foundation V8.5

HITACHI
 Inspire the Next

JP1 Version 8

uVALUE with Harmonious Computing

本カタログはAdobe社Acrobatにより制作したPDFカタログです。
 All Rights Reserved, Copyright © 2008, Hitachi, Ltd.

JP1 Version 8 Foundation

ストレージ管理

戦略的なストレージ運用で、 ビジネスを優位に進める。

ブロードバンドの普及、eビジネスの拡大、ユビキタス社会の到来
時代の変化に伴い、データ資産やトラフィックは日々加速度的に増加しています。
さらに、日本版SOX法(金融商品取引法)の適用開始に向けて、
データの長期保存、機密性保持といったコンプライアンス対応を見直す必要があります。
こうした中、ビジネスを優位に進めるためには、ストレージの効果的・効率的な活用と運用の省力化、
ビジネスを止めない信頼性とコンプライアンス対応を同時に実現するストレージシステムが求められています。
JP1ファウンデーションの「ストレージ管理」は、SAN/NAS環境でのさまざまなストレージ運用と、
マルチプラットフォーム環境におけるバックアップ運用の一元管理を実現。

ビジネスニーズに応えるストレージ運用と24時間365日のシステム安定稼働を支援します。

ビジネスを優位に進める戦略的ストレージ運用を実現するJP1

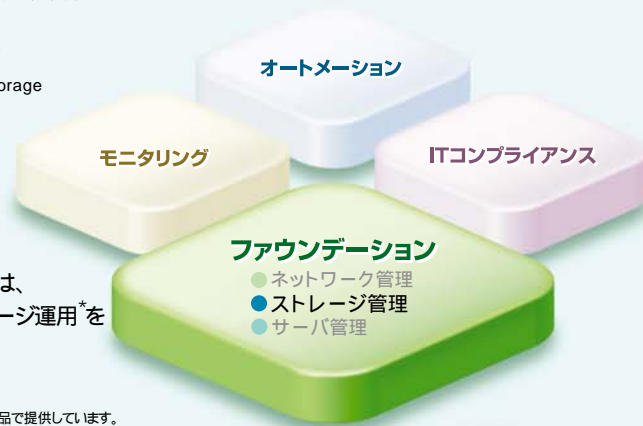
すべては、お客様の継続的な発展のために。

SAN : Storage Area Network NAS: Network Attached Storage

システム基盤を支える
それが、JP1の「ファウンデーション」。

「ファウンデーション」を構成する「ストレージ管理」は、
変化し続けるSAN/NAS環境において、複雑なストレージ運用^{*}を
簡素化し、ストレージシステムの安定稼働と
より確実なデータ保護を実現する製品群です。

* SAN/NAS環境のストレージ運用については「日立ストレージ管理ソフトウェア」製品で提供しています。



バックアップ運用のさまざまなニーズに多彩な機能でお応えします。

マルチプラットフォーム環境のバックアップ運用を実現したい。

多様なニーズに応える豊富なオプション製品群

- ライブラリ装置やチェンジャーへのバックアップ
- ネットワーク経由のバックアップ
- HiRDB、Oracle[®]、Microsoft[®] SQL Serverのオンラインバックアップ
- NDMP(Network Data Management Protocol)をサポートするNASバックアップ
- データの遠隔地保管支援

JP1/VERITAS NetBackup P3

Windows[®]環境でのバックアップ運用を簡単な操作で実現したい。

多様なニーズに応える豊富なオプション製品群

- ネットワーク経由のバックアップ
- Oracle[®]、Microsoft[®] SQL Serverなどのオンラインバックアップ

JP1/VERITAS Backup Exec P4

バックアップ運用例

- マルチプラットフォーム環境のバックアップ運用例
～複数サーバのバックアップを一元管理～
バックアップの一元管理 P5
- SAN環境でのバックアップ運用例
～業務に影響を与えずにボリューム単位の高速度バックアップを実現～
無停止高速バックアップ P5
- ディザスタリカバリ対策例
～バックアップデータのオフサイト保管を支援～
データの遠隔地保管支援 P6
- 運用の幅が広がるJP1連携
～「統合コンソール」「ジョブスケジューラ」との連携～
業務と連携したバックアップの自動運用 P6

さまざまな企業データをセキュアに保管する統合バックアップ運用を実現する

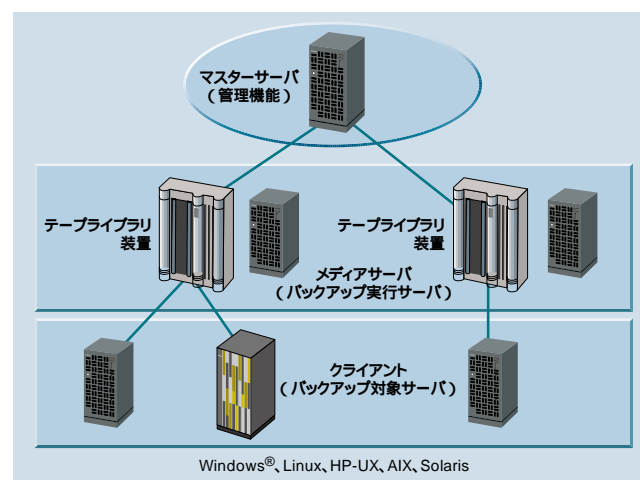
企業データの損失はビジネスに甚大なダメージを与えます。また、各種法規制施行により、企業データの保管は企業コンプライアンスの観点からも重要性を増しています。JP1/VERITASではWindows®サーバ1台の小規模システムから、マルチプラットフォーム環境の大規模システムまで、複雑・多様化するシステムの企業データをセキュアに保管し、万一の場合には、迅速な復旧を可能にするバックアップ/リカバリ運用を実現します。

マルチプラットフォーム環境のバックアップ運用を実現したい。

「JP1/VERITAS NetBackup」

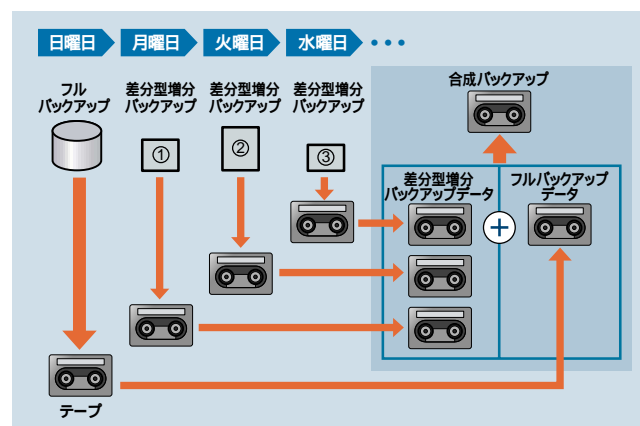
3階層アーキテクチャによる集中管理

論理的な3階層アーキテクチャでバックアップ/リストアを集中管理。複数のメディアサーバのジョブも、マスタサーバで集中的に制御・管理できます。さらに、メディアサーバはクライアントの増設に応じて拡張できるため、将来的なシステム拡張に柔軟に対応。大規模システムにおけるバックアップも中央のマスタサーバで集中管理できます。



バックアップ効率化とリカバリ時間の短縮(合成バックアップ)

最新のフルバックアップと差分型増分バックアップ、累積型増分バックアップを使用して、新たにフルバックアップ相当のバックアップを合成できます。これにより、バックアップ負荷の大きいフルバックアップの実行回数を削減、バックアップの効率化を実現できます。ネットワーク経由のバックアップでは、対象クライアントにアクセスしなくても、バックアップ実行サーバだけで、既存のバックアップデータからクライアントリカバリ用のフルバックアップを合成できます。合成したフルバックアップがあれば、それだけで復旧できるため、リストアのパフォーマンスが向上します。

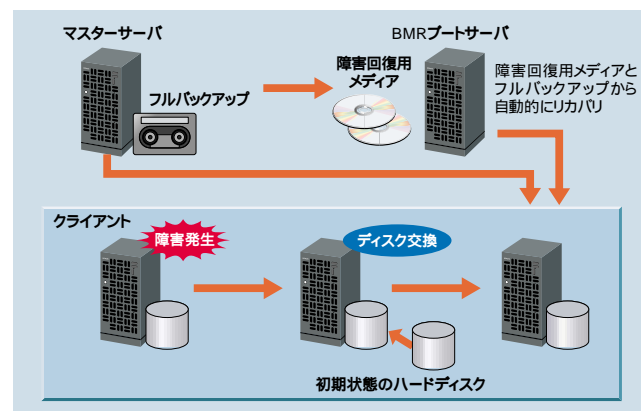


メディア管理

ボリュームプール
メディアをグルーピング(仮想的な1つのまとまり)して捉えることで、個々のメディアを意識することなく管理できます。
マウント回数の管理
バックアップ/リストアなどで実行されるマウント回数を管理します。メディアの交換時期の目安として利用できます。

信頼性の高い障害回復(BMR:Bare Metal Restore)

OSを含むシステム障害が発生した場合に、ドライブ構成の回復から、整合性のとれたデータ回復まで、一連のリカバリ作業を自動化できます。手作業によるリカバリプロセスを省力化することで、人為的ミスの削減による信頼性向上と、自動化によるリカバリ時間の短縮を同時に実現。より早く業務を再開できます。本機能はWindows®限定機能です。



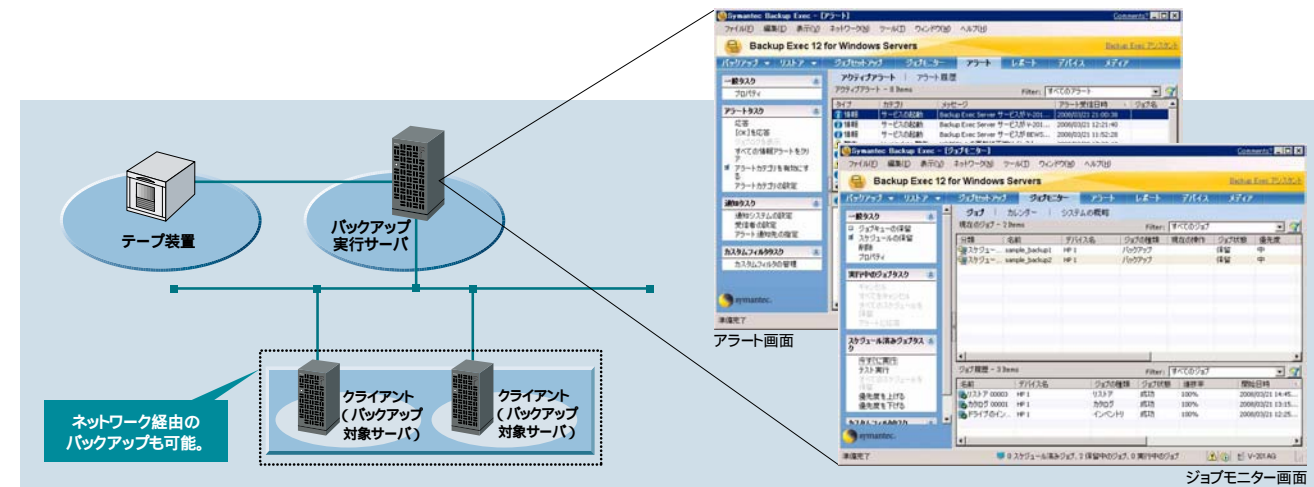
多様なニーズに応える豊富なオプション製品群

- テープへのバックアップ
ライブラリ装置やチェンジャーへバックアップできます。
- ネットワーク経由のバックアップ
クライアントのデータをネットワーク経由でバックアップできます。
- データベースのオンラインバックアップ
HiRDB、Oracle®、Microsoft® SQL Serverのオンラインバックアップを実現できます。
- NDMPサーバのバックアップ
NDMP(Network Data Management Protocol)をサポートするNASバックアップを実現します。
- データの遠隔地保管支援
バックアップテープを遠隔地へ輸送し保管することで、地震や火災などの災害からバックアップデータを保護します。

バックアップ管理

Windows®環境でのバックアップ運用を簡単な操作で実現したい。

「JP1/VERITAS Backup Exec」



直感的なGUIによる集中管理

Webブラウザのように使いやすい管理コンソールを提供。初心者でも簡単に操作できます。ジョブの成功・失敗は色分けされたジョブログにより一目瞭然、フィルタリング機能を使用すれば、大量のジョブから特定のジョブを絞り込んで表示することもできます。

簡単な設定ですぐに運用を開始

初めて使用する場合や不慣れな場合でも、ウィザードに従って操作するだけで簡単にバックアップ環境を構築できます。

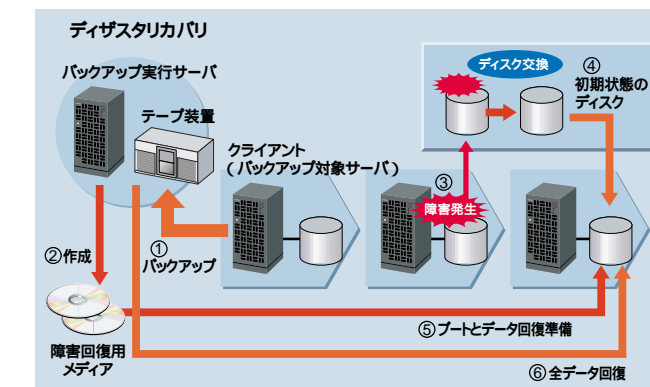


バックアップデータの暗号化

バックアップデータを暗号化することでセキュリティを強化できます。バックアップメディアに暗号化したバックアップデータを保管することで、メディアの紛失/盗難からデータを保護できます。さらにネットワーク経由のバックアップの場合にも、不正アクセスからデータを保護できます。

信頼性の高い障害回復(ディザスタリカバリ)

人為的ミスが発生しやすい従来型の手作業によるリカバリプロセスを省力化することで、人為的ミスの削減とリカバリ時間短縮を実現。より早く業務を再開できます。



オープンファイルのバックアップ

オープン中や使用中のファイルもバックアップできます。

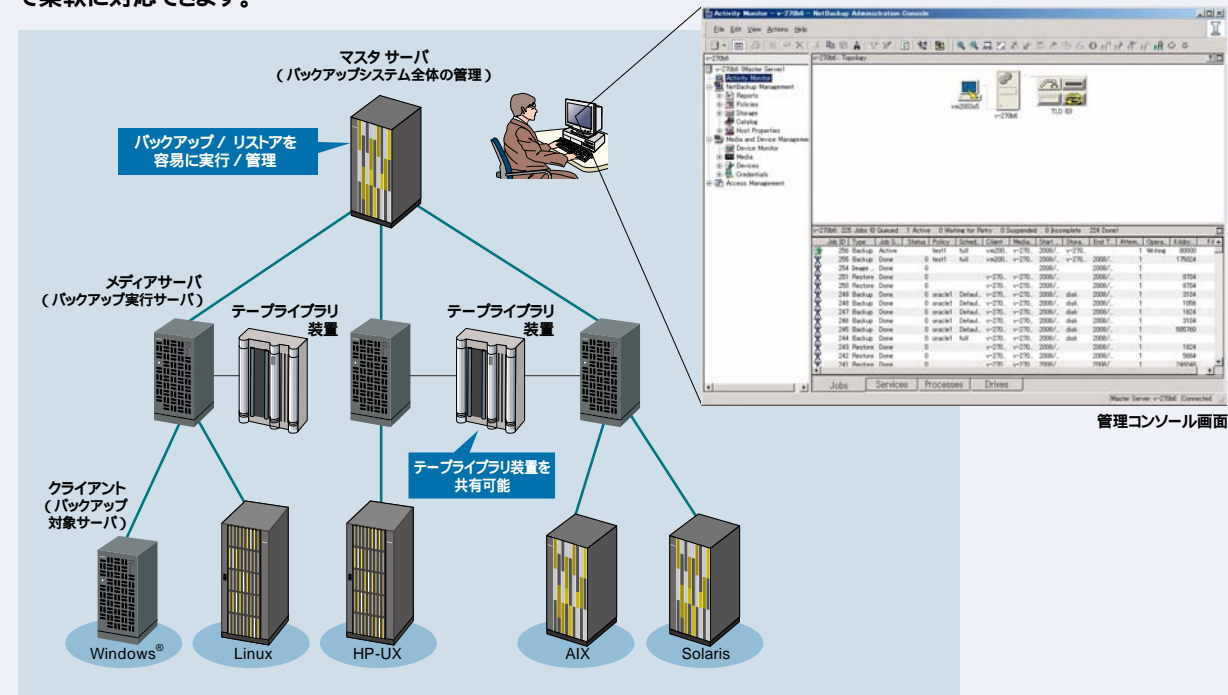
多様なニーズに応える豊富なオプション製品群

- ネットワーク経由のバックアップ
ローカルサーバはもちろん、ネットワーク上のWindows®サーバのバックアップも可能です。
- オンラインバックアップ
Oracle®、Microsoft® SQL Server、Microsoft® Exchange Serverのオンラインバックアップを実現できます。データベースを停止させずに、業務サービスを継続したまま、データベースのバックアップを実現できます。

4つのバックアップ運用例をご紹介します。

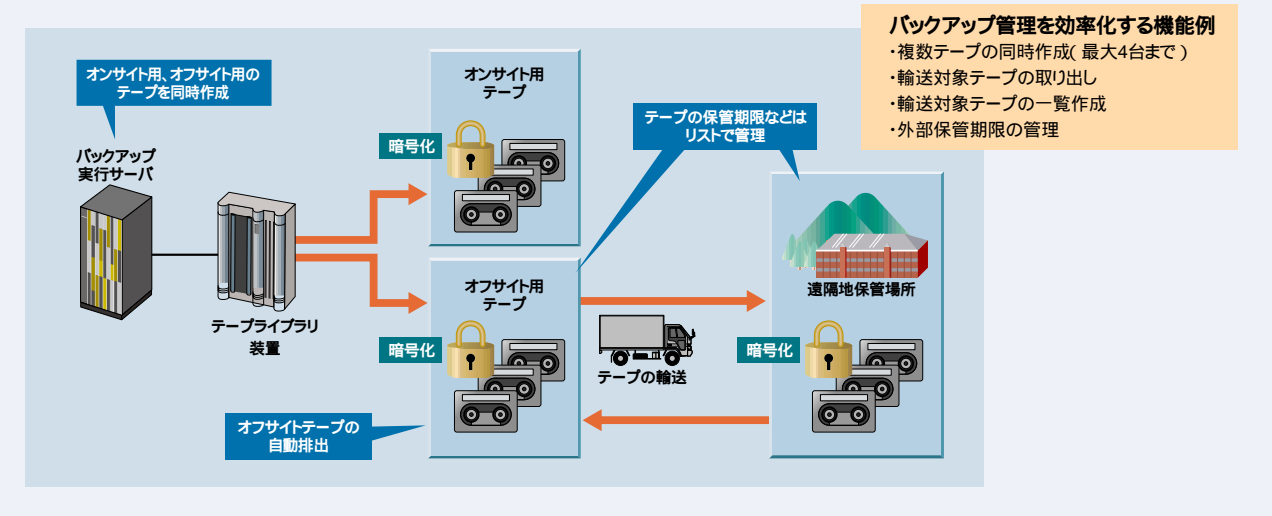
マルチプラットフォーム環境のバックアップ運用例
バックアップの一元管理
「JP1/VERITAS NetBackup」

Windows®, Linux, UNIX (HP-UX, AIX, Solaris) が混在するマルチプラットフォーム環境におけるバックアップの一元管理を実現します。バックアップシステム全体を管理するマスタサーバから複数のバックアップ処理も集中的に制御・管理できるため、運用負荷を大幅に軽減できます。将来的に、システムの拡張によりバックアップ対象が増えても、メディアサーバの増設で柔軟に対応できます。



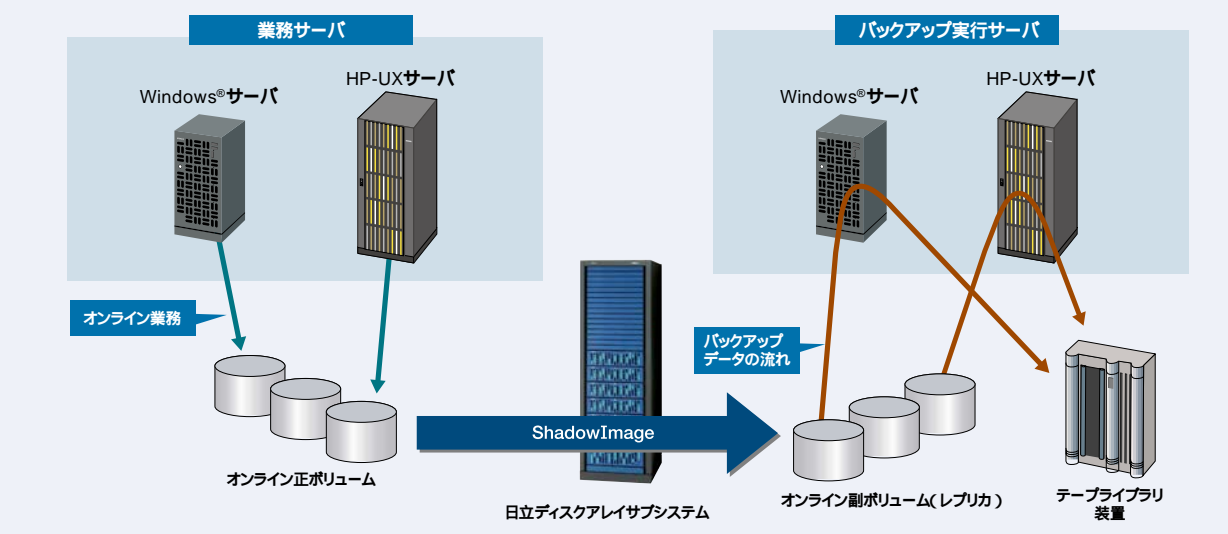
ディザスタリカバリ対策例
データの遠隔地保管支援
「JP1/VERITAS NetBackup」

地震や火災などの予測できない災害によりシステムに障害が発生した場合、バックアップデータを遠隔地に保管しておくことで、代替システムによりダウンタイムを最小限に抑えて業務を再開/続行できます。バックアップは事前に設定されたポリシーに従い自動実行。さらに、セキュリティ対策として、バックアップデータを暗号化することで、テープの輸送時にメディアが紛失した場合も第三者による情報の閲覧を防止できます。



SAN環境でのバックアップ運用例
無停止高速バックアップ
「JP1/VERITAS NetBackup」

24時間365日サービスを継続するシステムでも、業務を継続しながら、バックアップ/リストアを実現できます。日立ディスクレイアウトシステムのShadowImageと連携することで、正ボリュームでは業務を続行しながら、副ボリュームを使ってテープライブラリへのバックアップを実行。業務に影響を与えずに、ボリューム単位の高速度バックアップ/リストアが実現できます。



運用の幅が広がるJP1連携
業務と連携したバックアップの自動運用
「JP1/VERITAS NetBackup」「JP1/VERITAS Backup Exec」

【統合コンソール:JP1/Integrated Management】との連携
バックアップ業務の実行状況を、イベントコンソール画面で一元管理することが可能。JP1【統合コンソール】から【JP1/VERITAS NetBackup】や【JP1/VERITAS Backup Exec】の管理コンソール画面を直接起動し、イベントの詳細を確認できるため、迅速に対策できます。

【ジョブスケジューラ:JP1/Automatic Job Management System 2】との連携
業務終了など、さまざまなイベントを契機としたバックアップ業務の自動実行を実現。処理サイクルや運用日ベースなど、多彩なスケジュールによるバックアップ運用が行えます。

